



ライト 1 オープンとウィーク 2 オープンの差

2018.10.19

質問を受けることが多いことに、「ライト 1 オープンとウィーク 2 オープンのどちらで開ければよいか分からなくなるが、どう判断すればよいか？」があります。これはライトな 1 オープンが、特にメジャーで、ごく普通になってきているためでしょう。

ここで少しオープン条件について復習しておきましょう：

まずウィーク 2 ですが、教科書 (The Weak Two Bid in Bridge, by Harold Feldheim, 1971) を見てみましょう。

- A 6 枚スートであること
- B 6 点から 12 点であること
- C 通常はトランプ以外に 1 コントロール (A または K) より多く持たないこと
- D 理想的にはボイドがないこと
- E サイドに 4 枚メジャーが無いのが望ましい

が条件となっています。

一方、1 のオープンの条件は皆知っているようでも、案外に難しいものがあります。古くから言われていることをまず復習しておきましょう：Morhead on Bidding by Albert Morhead, 1965 によると、歴史的にはライトオープンの時代とその反対とが交互に現れてきていると書かれています。つまり

♠ 10763 ♥ A7 ♦ QJ5 ♣ KJ76

の 11 点を開ける人がいたライトオープンの時代と、

♠ AQ642 ♥ A65 ♦ Q76 ♣ 74

の 12 点では開けない人達がいたサウンドオープンの時代が交互に来ていたそうです。もちろんその中間の人もいて、最初のハンドはパスするが、2 番目のハンドは 1 S オープンする人達がありました。現代では、多くのエキスパートは 2 番目のハンドは 1 S オープンするでしょうが、最初のハンドはオープンしないでしょう。

また同じ 12 点でも

♠ KO963 ♥ KJ7 ♦ QJ97 ♣ 6

のハンドは 3rd ハンドでない限り 1 S オープンしないというのが普通だと思います。前者は 2.5 クイックトリックありますが、後者は 1.5 クイックトリックしかないからです。

要するに、1 でオープンすると、オフenseした時にどれだけ取れそうかだけでなく、ディフェンスに回った時にどれだけ取れるかを保証しなければいけないのです。

次のような 11 点ハンドを持ったとしましょう：

1) ♠ AKQ1065 ♥ J2 ♦ 96 ♣ J107

2) ♠ AQJ1095 ♥ KJ2 ♦ 53 ♣ 42

3) ♠ KJ10976 ♥ AJ9 ♦ Q108 ♣ 5

4) ♠ QJ10976 ♥ AJ10 ♦ K9 ♣ 64

1) はオフenseはありますがディフェンスがなさすぎます。だから 2 S か 3 S オープンでしょう。パル関係、位置にもよりますが、適切であれば 3 S でオープンする場合があります。

2) は 1) に比べると全体は 11 点で同じですが、サイドスート (=ハート) にディフェンストリックを持っています。これは 1 S オープンでも良さそうです。もちろん 2 S オープンでも良いように見え、ボーダーライン上です。

3) 4) はハートとダイヤモンドの 2 スーツに渡ってディフェンスを持っています。このようなハンドは 1 S オープンの方が良さそうです。

1 S オープンと 2 S オープンの決定的な違いは、その後の展開です。1 オープンの場合には後ろにダイレクトオーバーコールされて、パスパスと回ってきた時にダブルというテークアウトダブルになりますが、ウィーク 2 オープンにダイレクトオーバーコールされてパスパスと回ってきた時にダブルというテークアウト (balancing) ではありません。

1 オープンしてよいかどうかのチェックとして、balancing ダブルする事になった時 (これはオープナーの義務です) パートナーにペナルティパスされてもよいか? というチェックをするのがよいと思います。つまり、たとえば

1 S - (2 C) - P - (P)

X - (P) - P

とされて大丈夫かという判断基準です。普通こちらがオープンした限りでは、パートナーは 3 トリックはこちらで取れるものと期待しています。したがってパートナーは、自分が 3 トリック以上取れるという判断でペナルティパスをするものです。もちろんオープニングスートがシングルトンかボイドというミスフィットの上ですが。